

平成 28 年 2 月 1 日

## 研究公開用文書

**研究名：**広範囲熱傷の初期輸液に関する多施設共同無作為化非盲検比較対照試験

**研究の概要：**広範囲熱傷では体液（からだの水分）が失われ、血圧が下がるショックに陥ります。広範囲熱傷でショックにならないように大量の輸液（点滴）を行うのが世界の標準的治療であり、これまでは、バクスター公式（ $4\text{ mL} \times \text{熱傷面積} \% \times \text{体重 kg}$  を 1 日量として輸液）に基づいて輸液量を計算し、治療を開始するというのが標準的な治療として世界的に定着してきました。しかしながら、輸液の量を少なめにした方が呼吸障害を発生しにくくするとの意見もあり、アメリカの熱傷学会はこの大量の輸液量を減らす方法、すなわちバクスター公式の半分量から輸液を開始する治療法（ $2\text{ mL} \times \text{熱傷面積} \% \times \text{体重 kg}$  を 1 日量として輸液）を提案しています。本研究では従来の量（ $4\text{ mL} \times \text{熱傷面積} \% \times \text{体重 kg}$  を 1 日量として輸液）あるいは、その半量（ $2\text{ mL} \times \text{熱傷面積} \% \times \text{体重 kg}$  を 1 日量として輸液）で開始し、半量の輸液量が従来の輸液に比較して弊害が少ないかどうかを検討します。

**研究対象：**横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センターに搬入されて入院する患者さんで、広範囲熱傷と診断された方を対象とします（年齢が 21 歳以上の成人）。ただし、その他の合併症や治療経過により、担当医師が不適切と判断した患者さんは除きます。

**研究責任者：**

（附属市民総合医療センター）

所属：高度救命救急センター

氏名：春成 伸之

**研究実施期間：**

平成 28 年 7 月 1 日 ～ 平成 30 年 6 月 30 日

**連絡先：**

横浜市立大学（附属市民総合医療センター）

所属：高度救命救急センター

氏名：春成 伸之

〒：232-0024

住所：神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57

電話：045-261-5656